

想い

軌跡

# 小さな村でもやればできる！ ～村を誇りに思う心が後押し、全国との交流に発展～



「竹とわらで作られた世界一長い蛇」2001年ギネス認定。重量約2トン。約500人が交代で担ぐ。



村出身学生の企画で始まった国際ボランティア学生協会との交流は13年続いている。

### 【主な活動実績】

- 昭和63年8月 第1回まつり開催
- 平成16年4月 ふるさとイベント大賞 祭・イベント部門賞受賞
- 平成29年8月 羽越水害50周年記念イベントの翌日に第30回まつりを開催予定

【参考URL】

<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/info/sogo/taisitamonyja/maturi/maturi.html>

## えちごせきかわ大したもん蛇まつり

### 実行委員 野本 誠

#### 村が丸となって楽しめるまつりを！

人口約5,800人の関川村。高齢化や過疎化で田舎が持つ連帯感が薄れつつあった。人材育成のため村が開いた「せきかわふるさと塾」での発案がまつり誕生のきっかけになった。

#### 羽越水害を忘れないために…

村は昭和42年8月28日に発生した羽越水害で、多くの犠牲者と甚大な被害に遭った。その悲しみを決して忘れないよう、まつりの日を8月28日前後、大蛇の長さも82.8mとした。

#### 全集落が手作りする世界一長い大蛇

竹とわらで作る大蛇の胴体は、全集落の数54に分けて全集落が協力して制作。まつり当日に参加できない人も関われる工夫だ。

わらを編むロープでウロコを表現するのは塾生の昼職人からのアイデア。村特産品のわら細工がヒントになった。

#### まつりを続けることが村の誇りに

当初は毎年続けるつもりは無かった。1年目は大成功したが、モチベーションを維持するのに苦労した。実行委員の熱意と村民に芽生え始めた“村を誇りに思う心”が後押しになって続けられている。

#### 地域間交流で人の輪が広がった

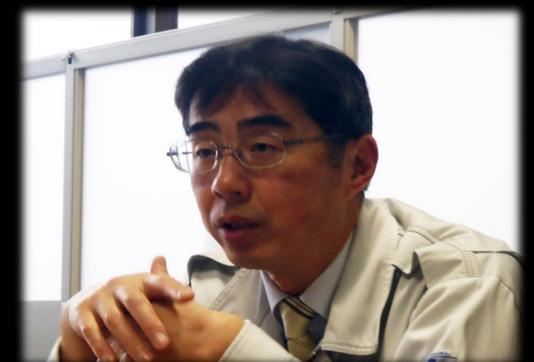
他地域のイベントから声がかかり、徐々に交流が広がった。ボランティア参加がきっかけで全国の学生とも通年で交流するまでに…



村を襲った羽越水害。羽越水害と村に伝わる大蛇伝説をまつりのテーマに。



全集落で大蛇を制作。



野本 誠